

## 越前瓦の家紋表札づくり

対象エリア	越前町江波地区
日時	平成26年9月24日（水） 19:00～21:30
開催場所	宮崎コミュニティセンター（越前町江波50-80-1）
対象者（人数）	越前町宮崎地区の住民 参加者30名
主催	福井県
協力	宮崎地域コミュニティ運営委員会 福井県瓦工業協同組合
講師	福井県瓦工業協同組合 藤原 綱蔵 氏
ねらい	越前町江波地区に数多く残る伝統的民家を構成する材料の一つ「越前瓦」に各家庭の家紋を彫った表札を作ることを通じ、伝統的民家に誇りと愛着を持ってもらおうと共に、地元産業である越前瓦に親しんでもらい、地域産材の供給拡大を目指す。
プログラム	1. 越前瓦の製造工程や特長について学ぶ 2. 家紋表札の製作手順を聞く 3. 家紋表札をつくる
準備物	<ul style="list-style-type: none"><li>・越前瓦粘土 板荒地 24cm角</li><li>・下敷き（コンパネ等）</li><li>・へら</li><li>・家紋の図柄を印刷した型紙（A3サイズ）</li><li>・芯の丸まった鉛筆</li><li>・ラップ</li></ul>



銀鼠色の越前瓦が葺かれた切妻屋根と、漆喰の白壁に屋根を支える構造材が縦横に美しく見える伝統的民家が数多く残る、越前町江波地区の家並み。作家・司馬遼太郎の著書「街道をゆく（18越前の諸道）」で「越前風の民家の軽快な屋根の勾配、白壁に縦横の構造材を露出させている力学的な感じは、なんともいえずいいものであった。」と、越前町（旧宮崎村）を訪れたときの感想を記している。

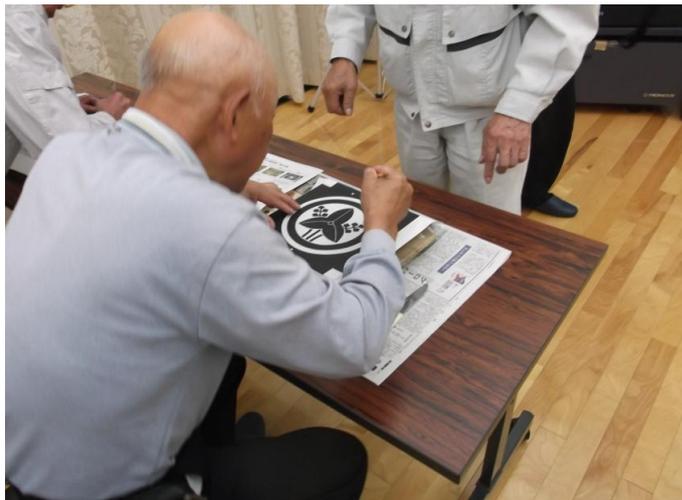


まず最初に、越前瓦の製造工程と特長について、DVDを交えて説明した。

越前瓦が他の瓦と違う一番の特徴は、「還元炎焼成」にあり、耐水性に富み、上部ですべりにくく、しかも寒さに強い、福井という風土に適した瓦となる。



次に、家紋表札の製作手順を説明した。完成品をサンプルとして展示しているため、参加者も完成のイメージを持ちながら作業をすることができる。



いよいよ家紋表札づくり。  
瓦粘土の上にラップを敷き、  
家紋の図柄を印刷した紙を設  
置、鉛筆でなぞって粘土に家  
紋を転写させた。



転写された家紋の図柄に合  
わせて、へらで彫っていく。



最後に壁に取り付けるため  
の釘穴をあけ、ワークショッ  
プは終了した。



ワークショップ後、乾燥・施釉・焼成して完成。完成品は、地区の産業フェアのブースで展示した。

来場者からは「これはどこで売ってるんですか？」や、「今度、製作する教室があれば参加したいので教えてほしい。」などの反響があった。



完成した越前瓦の家紋表札を設置した様子。この表札の製作者は「表札を設置することで、誇りある伝統的民家と越前瓦を来訪者に知ってもらいたい。」と、話していた。

# 住教育ワークショップ 「越前瓦の家紋表札」製作手順

手順①	手順②	手順③
 <p>中央に名前を記入します。 (完成品の裏面になります)</p>	 <p>裏返して、粘土の上にラップを敷きます。</p>	 <p>ラップの上に家紋を印刷した紙を、位置を合わせて置きます。この時、端(赤点線部分)を少し折り曲げておきましょう。</p>
 <p>丸まった鉛筆で、白と黒の境界部分をなぞっていきます。(白部分が彫り込む部分です。)</p>	 <p>粘土に図柄が転写されます。赤丸部分も忘れないように転写してください。</p>	 <p>へらを使って粘土を彫っていきます。少し斜めに切り込むと、完成した時に立体感が出ます。</p>
 <p>葉脈など細い線は、写真のへらを使って溝をつけるだけで構いません。</p>	 <p>赤丸部分の穴をあけて作業は終了です。お疲れ様でした。</p>	 <p>乾燥・施釉・焼成をしてからお渡しします。10月20日以降にコミュニティセンターに取りに来てください。</p>

失敗した時は、係員をお呼びください。

福井県瓦工業協同組合 ・ 福井県土木部建築住宅課